

11.研究発表（平成19年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計(2)件

著者名	論文標題			
Mori, T., Wada, T., Suzuki, T., Kubota, Y. and Inagaki, N.	Singar1, a Novel RUN Domain-containing Protein, Suppresses Formation of Surplus Axons for Neuronal Polarity.			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
J. Biol. Chem.	有	282	2007	19884-19893

著者名	論文標題			
稲垣直之、鳥山道則、島田忠之	神経極性形成とShootin1のフィードバックループ			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
生化学	無	79	2007	799-802

〔学会発表〕 計(6)件

発表者名	発表標題	
Shimada, T., Toriyama, M., Uemura K., Sugiura, T., Watanabe, N., Kamiguchi, H., and Inagaki, N.	Shootin1 Transmits Driving Force of F-actin Flow to L1-CAM for Neurite Elongation	
学会等名	発表年月日	発表場所
47th Annual Meeting of the American Society for Cell Biology	December 1-5, 2007	Washington DC, USA

発表者名	発表標題	
稲垣直之	プロテオミクスを用いた脳神経回路網形成の分子機構の解析	
学会等名	発表年月日	発表場所
第57回 日本電気泳動学会シンポジウム	2007年6月20日	横浜

発表者名	発表標題	
Asano, T., Toriyama, M., Inagaki, N., Sakumura, Y., Ishii, S.	Quantitative Analysis of Shootin1 and neurite elongation	
学会等名	発表年月日	発表場所
Neuro2007 第30回日本神経科学大会	2007年9月10日～12日	横浜

発表者名	発表標題	
稲垣直之、鳥山道則、島田忠之、森達也	新規タンパク質Shootin1とSingar1による神経極性形成の制御	
学会等名	発表年月日	発表場所
第30回 日本分子生物学会・第80回 日本生化学会合同大会ワークショップ、From shape to function:ニューロンの形態形成と可塑性を司る分子基盤	2007年12月14日	横浜

発表者名	発表標題	
鳥山道則、作村論一、浅野卓也、島田忠之、稲垣直之	Shootin1と神経突起伸長のPositive feedback loopによる神経極性形成機構	
学会等名	発表年月日	発表場所
第30回 日本分子生物学会・第80回 日本生化学会合同大会	2007年12月14日	横浜

発表者名	発表標題	
島田忠之、鳥山道則、上口裕之、杉浦忠男、渡邊直樹、稲垣直之	新規タンパク質Shootin1は、F-actinの求心的移動とL1-CAMを連結することで神経突起伸長を促進する	
学会等名	発表年月日	発表場所
第30回 日本分子生物学会・第80回 日本生化学会合同大会	2007年12月14日	横浜

〔図書〕 計(1)件

著者名	出版社		
Mori T., Inagaki N., Kamiguchi H.	Springer-Verlag, Berlin		
書名	発行年	総ページ数	
Neuronal Process Outgrowth., In Lajtha F.W. (ed): Handbook of Neurochemistry and Molecular Neurobiology	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	印刷中	

12. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

〔出願〕 計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

〔取得〕 計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別

13. 備考

※ 研究者又は所属研究機関が作成した研究内容又は研究成果に関するwebページがある場合は、URLを記載すること。

http://bsw3.naist.jp/itoh/home/oldhome/contents/inagaki/shoukai_inagaki.html